2025年5月10日

紙相撲新聞

第165回本場所
初日～三日目号

編集・発行
日本紙相撲協会

新横綱

西神門3連勝

新横綱西神門、安定の3連勝
注目の新入幕大石丸も3連勝

【第百六十五回本場所初日～三日目】

本場所開催で珍しく小雨が降る中、5月10日に第165回本場所（令和7年夏場所）の幕が開けた。今場所は先場所に連続優勝を飾った大関西神門が第28代横綱に昇進して5横綱の番付となった。

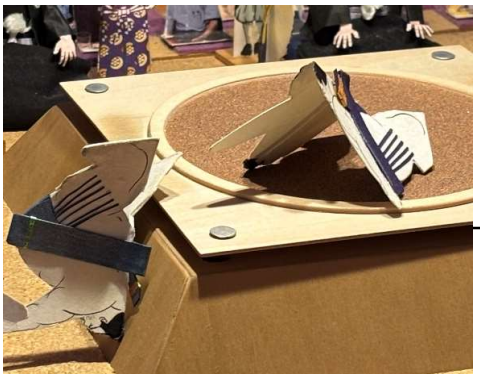
先々場所、大神楽が第27代横綱に昇進し、協会創設史上初の4横綱となったのもつかの間、まさか5横綱の時代が来るとは。協会創設者の徳川さんですら、さすがに夢に見ることもなかったであろう。

今場所は5横綱による優勝争いになるものと思われたが、先場所途中休場した千代鈴が今場所も初日から休場することとなった。横綱陣の中では千代鈴と新横綱の西神門が一歩リードしていると思われていただけに千代鈴の休場は残念だ。

↑新横綱として初日の相手は難敵夢ノ花。プレッシャーのかかる緊張の一番だったが、周囲の不安をよそに、圧倒的な出足で寄り切った。

千代鈴の休場で西神門の3場所連続優勝の可能性が高まったといってもいいかもしれない。これに加え、次の大関を狙う鬼ヶ嶽、四季嶋、綱乃花の3関脇が優勝争いに絡んできそうだ。

さらには、先場所10勝1敗で十両優勝した大石丸が新入幕で一気に前頭七枚目に躍進。幕内での実力は未知数だが、ひょっとすると優勝争いに加わってくるかもしれない。



↑二日目、同門の兄弟子西勢里との初対戦。お家騒動後の因縁の対戦だったが、落ち着いた取り口で押し倒して連勝とした。

↑西神門土俵入りは、太刀持ちに「すき家」、露払いに「はま寿司」のロゴを載せた三つ揃えの化粧廻し。そのセンスに皆感服。

場所前には、このところ恒例となった横綱稽古総見が行われ、調整を含め千代鈴も参加し、横綱陣では意外にも若ノ嶋が一番の好成績だった。「今場所は若ノ嶋が優勝か？」という声も聞こえたが、「稽古と本場所は違うからね」と口にした錦風親方だが、好成績には気分を良くしていたようだ。

逆に想定外に負けたのが新横綱の西神門。新横綱としてのイメージが多かったせいでの稽古をっかりでき十分にないのが災いしたか。

新横綱西神門は初日は危なげなく勝ったが二日目は同門の西勢之里に差されそうになる場面があり、三日目の四季嶋には差されたものの引き落としでかろうじて勝つ相撲となった。こうした危ない相撲を拾って勝つのも強い証なのだろう。

156回以来、9場所振りに東正横綱に座った春ノ翔は初日、二日目と横綱相撲で勝ったが、三日目に初顔の西勢之里に敗れ2勝1敗でのスタートとなった。

初日に5横綱による土俵入りを楽しみにしていた紙相撲ファンは千代鈴休場の報に接し「史上初となる5横綱の豪華横綱土俵入りが見られると思ったのに残念！」と口々に語っていた。

この日は3日間行われ、横綱西神門が場所前の総見での心配をよそに3連勝と好スタートを切った。

三役以上での3連勝は西神門ひとり。平幕での3連勝は大石丸、若柱のという結果に。

六歌仙●（引き落し）○春ノ翔

西勢里○（寄り切り）●春ノ翔

春ノ翔○（寄り切り）●英　筏

西神門○（引き落し）●四季嶋